

JSSM 第 34 回全国大会原稿テンプレート

The template file for the 34th Annual Conference of JSSM

日本一郎 *
Ichiroh NIHON *

安全良子 *
Ryoko ANZEN *

管理 学 †
Manabu KANRI †

* 工学院大学 情報学部

† 情報セキュリティ大学院大学 情報セキュリティ研究科

* Faculty of Informatics, Kogakuin University

† Graduate School of Information Security, INSTITUTE of INFORMATION SECURITY

要旨

要旨は、邦文で 600～800 文字程度の概要を記載する。(1 行：11 ポイントの文字で 45 文字程度)
参考として、要旨部の 1 行の文字数が分かるよう以下に 1～0 の数字全角を連続し記載する。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4
5 6 7 8 9 0

キーワード

日本、安全、情報、管理、学会 (3～6 個のキーワードをつける)

1. はじめに

原稿作成は、日本セキュリティ・マネジメント学会「学会誌研究論文等投稿規定」原稿執筆要項に従うが、第 34 回全国大会では、原稿は図表などを含め電子ファイルとして完成し、メール添付で提出して頂くこととした。

そのために、原稿執筆要項に準じた latex の簡易テンプレートを作成した。原稿作成は、このテンプレートを利用し、原稿提出は、latex 原稿ならびに画像等ソースファイル一式、および確認用の PDF 原稿を提出していただくようお願いする。

原稿枚数に特段の制限はないが、6-8 枚程度を目安とし、製本の都合上偶数枚が望ましい。

2. テンプレート

このテンプレートは、A4 用紙サイズで、余白 (上下余白 20mm、左右余白 25mm) で設定されており、予稿集の印刷も A4 サイズとなる。

表題、執筆者名、所属機関名 (邦文、英文とも) は、本レイアウト枠内で記載する。

この書式の要旨は 1 段組 (45 文字程度 / 1 行)、本文は 2 段組 (20 文字程度 / 1 行) の設定がなされている。

参考として、2 段組の本文の 1 行の文字数が分かるよう以下に 1～0 の数字全角を連続し記載する。

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 1
2 3

3. 原稿提出先・締め切り

原稿提出先：

分科会「とりまとめ責任者」の審査により報告が採用された方は、原稿を作成し、latex 原稿および確認用の PDF 原稿を、メールに添付し下記アドレスに送付する。

送信先アドレス：jssm34conf@jssm.net

上記のメールアドレス経由以外では、原稿は受け付けない。

締め切り：2020 年 5 月 18 日 (月)

これを過ぎると発表要旨集には掲載されず、ご自身で配布資料を用意していただくこととなる。

4. 原稿作成

文章は、「……である」調の文体 (常体) で、なるべく常用漢字、新仮名使いによって書く。

本文では、参考文献を適切に引用し、当論文の研究上の位置づけ、主張の概要などを明確にする。

ただし、他文献からの引用・転載については、著作権を尊重し、無断流用、正当な範囲を超える引用、転載は行わない。

脚注を必要とするときは、本文中の該当個所に、*1, *2, *3, *4 の記号を付して、きりのよい箇所に脚注を記載する。

但し、本大会では latex の機能を使用し、この例のように脚注を記載してよい^{*1}。

4.1. フォント

原稿で用いるフォントは原則としてこのテンプレートに従う。

フォントの種類：

このテンプレートでは、邦文の表題と本文内
の見出しのみゴシック、その他は明朝とし、英
文はすべて Times としている。

フォントのサイズ：

表題（邦文）	LARGE
表題（英文）	Large
執筆者（所属機関）	normalsize
要旨	normalsize
本文内の見出し	Large, large
本文	normalsize
脚注	small

4.2. 図・表

図表の番号は、下記の例を参考に図 1、表 1
などとする。図はカラーでも可能だが、印刷は
モノクロとなるので、モノクロ印刷となること
を考慮して作成する。

色分けのアミの区別がしにくく、アミが濃い
と文字が見えなくなる。

グラフの線を色分けすると違いがわかりにく
い等の問題がある。

図・表はグレースケールで各自確認をとって
いただくようお願いする。

2 段組で原稿を作成した場合でも、本文中の
図表は、2 段にまたがってもかまわない。この
ような場合は、figure* 環境、table* 環境を用
いる。

なお、図表の作成に使用した資料・文献など
は、必ず出典を明らかにする。

図・表の作成例：

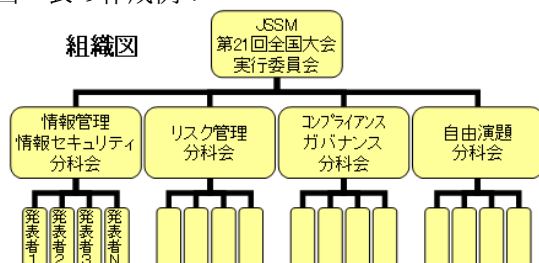


図 1 図の例

表 1 表の例

Part	Font size
Title (Japanese)	LARGE
Title (English)	Large
Author(organization)	normalsize
Abstract	normalsize
Headings	Large, large
Body	normalsize
Footnote	small

4.3. 数式

数式の番号は、下記サンプルのように番号を
つける。

$$p(\lambda | \mathbf{y}) = \frac{p(\mathbf{y} | \lambda)p(\lambda)}{p(\mathbf{y})} \quad (1)$$

4.4. 参考文献

参考文献は、文中で引用（参考）箇所に一連番
号を引用された順に付けることとし、かぎカッ
コで [1]、[2]、[3] などと記載し、本文末尾に番
号順に参考文献を記載する。

雑誌はこのテンプレートの例 [1]、[2] に倣い
執筆者名、「題名」、出版社名、○巻○号、発行
年月、引用（参考）頁の順に記載する。[1]、[2]

書籍は、例 [3]、[4] に倣って、邦文・英文とも
に、著者名、「書名」、出版社名、発行年月、引
用頁の順に記載する。[3]、[4]

インターネット情報は、例 [5] に倣って、提供
元、情報タイトルとその URL を記載する。[5]

必要に応じて引用文献とは別に、参考文献
をつける。その場合は、著者のアルファベット
順、年代順に掲げ、記載事項は引用の場合に準
じる。

5. まとめ

以上、本テンプレートに従って原稿作成をお
願いする。不明な点は、下記各分科会の「とり
まとめ責任者」にメールにて問い合わせる。

- (1)「個人情報の保護研究会」
責任者：力委員
- (2)「先端技術・情報犯罪とセキュリティ研
究会」
責任者：橋本委員
- (3)「環境マネジメント研究会」
責任者：大内委員
- (4)「関西支部研究会」
責任者：椎原委員
- (5)「セキュリティ法と経営研究会」
責任者：石田委員
- (6)「IT リスク学研究会」

^{*1} この脚注は latex の機能で付けている。

責任者：千葉委員

(7)「IT 統制研究会」

責任者：藤田委員

(8)「情報セキュリティ会計研究会」

責任者：清水委員

(9)「自由論題」

責任者：藤本委員、石田委員

(10)「学生セッション」

責任者：朴委員、藤川委員

参考文献

- [1] 情報花子、「情報科学：研究所における情報管理」、日本セキュリティ・マネジメント学会誌、第 21 巻 第 6 号、2007 年、pp.21-42
- [2] Arnold, Cooper, ‘Story of Property Rights’, Abc University Review Vol.11, No.1, 2007, pp.128-256
- [3] 情報太郎、「リスク管理」、〇〇出版、2007 年 3 月、p.128
- [4] William, Wain, ‘Financial Structure Research’ Xyz Economic Press, 1970 pp.135-246
- [5] (株) △△、個人情報保護法について、
<[http://www. △△.co.jp/faq.html](http://www.△△.co.jp/faq.html)>、
2008 年 3 月 3 日アクセス